

平成 29 年度 岡山県農林水産総合センター森林研究所（木材加工研究室）

試験研究課題評価結果票

<事後評価>

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番 号	29-事後-1						
課題名	岡山県内で開発されている新しい木質材料の性能試験						
課題の概要	近年、接着重ね梁やCLT（直交集成板）等、新しい木質系建材ヘスギ・ヒノキを利用することで県産材の需要拡大が期待されている。本課題は、接着重ね梁やCLT等、本県で開発されている新しい木質材料の性能評価を行うことで、県産材の需要拡大を図る。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度	1 人	2 人	3 人	人	人	3.7
	有効性（効果）	人	3 人	3 人	人	人	3.5
	有効性（目的以外の成果）	1 人	4 人	1 人	人	人	4.0
	効率性・妥当性（費用対効果）	2 人	2 人	2 人	人	人	4.0
	効率性・妥当性（計画）	人	2 人	4 人	人	人	3.3
	成果の活用・発展性	1 人	4 人	1 人	人	人	4.0
	総合評価	1 人	3 人	2 人	人	人	3.8
助言・指摘事項等	<p>1 重ね梁については背割付、四面背割なども試験する事で内部割れのリスクを抑えられる可能性がある。</p> <p>2 背割り（一面、四面）有りの材料も使用してほしい。</p> <p>3 学術的に興味深い内容を含んでいる。</p> <p>4 岡山県内の木材工業界にとっては極めて重要な研究テーマと思われる。今後の更なる研究の継続を期待する。</p>						

平成 29 年度 岡山県農林水産総合センター森林研究所（木材加工研究室）

試験研究課題評価結果票

<事後評価>

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番 号	29-事後-2						
課題名	岡山県産材の難燃化技術の開発・改良						
課題の概要	「公共建築物等木材利用促進法」が施行され、公共建築物は、その用途及び規模等により防火制限が適用されることが多いため、内装を木質化するためには、木質の防火材料が必要になる。しかし、これまで岡山県産材の難燃化については、十分に検討されたことはなく、難燃化処理を行える工場も存在していない。本研究は、岡山県産材の難燃化技術の開発・改良を目的としている。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度	人	3 人	3 人	人	人	3.5
	有効性（効果）	1 人	2 人	3 人	人	人	3.7
	有効性（目的以外の成果）	1 人	3 人	2 人	人	人	3.8
	効率性・妥当性（費用対効果）	人	3 人	3 人	人	人	3.5
	効率性・妥当性（計画）	人	3 人	3 人	人	人	3.5
	成果の活用・発展性	1 人	3 人	1 人	1 人	人	3.7
	総合評価	人	4 人	2 人	人	人	3.7
助言・指摘事項等	<p>1 処理コストの抑制が普及に向けての課題である。</p> <p>2 実用に向けて、更なる発展を期待する。</p> <p>3 木材の難燃化はこれからの建築にとって重要な課題である。スギ、ヒノキの無節による研究だったが、現実は無節ばかりを使うことは不可能であり、次の課題として節有りでの研究をお願いする。</p> <p>4 人の安心・安全の視点から大切な研究テーマである。民間企業の協力を得て研究が進められて、優れた研究成果を出している。今後は商品化に軸足を移してさらに検討して欲しい。</p>						

平成 29 年度 岡山県農林水産総合センター森林研究所（木材加工研究室）

試験研究課題評価結果票

<事後評価>

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番 号	29-事後-3						
課題名	内装用木材の含水率管理技術の開発						
課題の概要	無垢内装材の製造においては、最近の住環境に適応できる高品質な製品とすることが求められる。一方、近年の建築物においては、特に断熱・気密性能等の向上や、熱源の転換（灯油・ガスから電気へ）が進んでいるが、住環境（温度、湿度）に関する具体的データの蓄積が少ない。このため、これらの状況を把握するとともに、無垢内装材の適正含水率基準および製造技術について検討を行う。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度	人	3 人	3 人	人	人	3.5
	有効性（効果）	人	6 人	人	人	人	4.0
	有効性（目的以外の成果）	1 人	5 人	人	人	人	4.2
	効率性・妥当性（費用対効果）	人	5 人	1 人	人	人	3.8
	効率性・妥当性（計画）	人	2 人	4 人	人	人	3.3
	成果の活用・発展性	人	5 人	1 人	人	人	3.8
	総合評価	人	6 人	人	人	人	4.0
助言・指摘事項等	<p>1 内容が幅広くまとめを含め考察の上、発展する余地が大いにある。</p> <p>2 今回の研究によって室内の木材の平衡含水率が昔と比べてエアコン等の普及によってかなり下がったことが分かった。貴重な研究成果である。</p>						